



一日一前

校長室通信

第 15 号

平成30年7月9日

7月 — 国際好感度世界第5位 —

サッカーワールドカップロシア大会で日本チームはフェアプレイポイントで予選通過し、ベスト16で惜敗しました。大会直前の監督交代や、選手の平均年齢が過去一番高かったため、勝負に関しては期待できないという見方が一般的でしたが、大会が始まると選手達は大活躍でした。



サッカーワールドカップは1930年に始まった世界最高峰の大会です。4年に一度、オリンピックの中間年に開催され、テレビ視聴者数や経済効果はオリンピック以上です。優勝チームには30億円以上の賞金が与えられますし、ベスト16でも賞金は10億円以上とされています。

正直、私も今回は期待できないと思っていましたが、3戦目のポーランド戦の結果で決勝トーナメントに行けるかどうか決まることになり、応援しなければという気持ちになりました。その理由でポーランドについて、ネットで調べていくと、途中で意外な事実を知ることとなりました。

それはポーランド人は日本に対する好感度が高いということです、ポーランド人は将棋好きな人が多く、外国人初の女流棋士になったのはポーランドの女性だったり、ワルシャワの人気レストランのランキング1位はうどん屋です。また「日本祭り」の開催がポーランド人にとっては人気のあるイベントとなっており、日本食屋台が人気があったり、浴衣姿で祭りに参加している女性も多く見られ、日本の文化に興味を持っている人が多いようです。

そこで、そもそも日本人に対する世界の国際好感度はどうなっていたらと更に調べてみました。すると2014年のデータで日本は国際好感度世界第5位となりました。この調査は世界56カ国12万人を対象に実施したデータで、右表のとおり、1位から4位の国は日本人にとっても良い印象がある国だと思います。

国際好感度トップ10			
1位	ドイツ	6位	EU諸国
2位	カナダ	7位	アメリカ
3位	イギリス	8位	中国
4位	フランス	9位	南アフリカ
5位	日本	10位	韓国

そのデータの中で、日本に対する国際好感度が高い理由が4点述べられています。1点目は日本人の「マナーと公共心」で、サッカーの試合後にゴミを拾う姿や大震災での行動は世界中から賞賛されています。2点目は「団結精神」で、日本人は仕事でもスポーツでも団体になると強みを発揮することで知られています。また3点目は世界一「時間を守ること」で有名で、日本国内では電車が1分遅れただけでアナウンスが流れたり、空港会社の定時到着率は世界第1位が日本航空、2位が全日空です。さらに4点目は「ODA（政府開発援助）」で、長年他国の開発援助を継続しています。言い換えると、「マナーやルール」「協調性」「時間」「他者への思いやり」を大切にする国だと認識されているために国際好感度が高くなっているということです。



さて、それらは生徒への指導事項の中に含まれているものです。今月は学校祭で多くの方が来校しますし、2、3年生は就職試験、推薦入試や見学旅行が迫っています。また外部講師からの講話の機会も増えてます。「丘珠高校の生徒は好感が持てる」と言っていただくことが、学校への信頼や魅力、更なる期待につながると思います。そしてワールドカップで日本チームがフェアプレイポイントで決勝トーナメントに進んだのも誇りであり、日本らしいと感じました。